

雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

HP: <http://www.network.sumida.tokyo.jp/amamizu/>

## 志は人類的に実践は足元から

←  
-2000年を迎えて

→  
■会長 辰濃 和男

急用があって、新春の那覇を訪ねました。沖縄市に寄り、新旧の水道局長に会いました。市営集合住宅二百数十戸の新設にあたって、各戸に雨水利用のタンクを造る予定にしているという話を聞き、さすがに雨水利用先進市だと感服しました。より進んだ雨水利用に取り組む市民も多く、市全体が「雨水」を暮らしの核にしているようでした。今年度表彰された五件のうち、金城光栄さんの家を見学しました。自力で庭に七基のタンク（中古品）を造り、計13トンもの雨水を蓄え、植木、畑、洗濯などに使っています。我田引水ながら、これも97年雨水フェアの成果なのだと思います。足元を見つめ、きっちりと一步歩前進している沖縄市の姿には学ぶべきことがたくさんあります。

さて、2000年代の世の動きはどうなってゆくのか。100年前、報知新聞は「20世紀大予言」をしています。鉄道が時速240km以上になり、東京一神戸間が2時間半になるとか、馬車がなくなりて自動車が安く買えるようになると、的中予言が多くて驚きます。「ではこれから100年は」と問われるとだれもが戸惑いを覚えるのではないでしょうか。変化が激しすぎて予言どころじゃない、大体人類が生存し

ているのかどうかさえわからない、という人もいるでしょう。

確実なのは、淡水が地球上の大問題になることです。2050年には、水不足に悩まされる地球上の人の数は10億人から22億人に達する、という統計があります。水ストレスの状態にある人はさらに多く、46億人に達する恐れがあると統計は示しています。とりわけアジア、アフリカ諸国が深刻で、水戦争の恐れさえあります。人類の生存にかかわる水の問題をどう乗り越えるか。地球的規模で雨水の貯留を考え、実践すること、そこに人類の英知を働かせることができるかどうか。

近い将来、日本国内では雨水貯留が義務になるでしょう。校庭や公園の地下ダム化はむろん、新築のビル、家屋、集合住宅は雨水槽の設置が義務づけられるでしょう。雨水貯留、海水の淡水化、天井冷房、自然エネルギー利用の技術はさらに進み、費用も安くなり、水不足、エネルギー不足に苦しむ国へ輸出されることになるでしょう。

志は人類的にしかし実践は足元から、というのが環境問題の原則です。夢は大きく、同時に足元の雨水利用を一步歩前進することを考え、この一年またいい仕事をしましょう。



新宿区内で起きた

## 都市型洪水による死亡事故

### 現地調査のご案内

去年（平成11年）の夏は、集中豪雨による被害が目立ちました。

7月21日には、東京新宿区のマンションで地下倉庫が水没し、様子を見にエレベーターで地下へ降りた住民が水死するという痛ましい事故が起きました。

その約3週間前の6月29日にも、福岡市で、博多駅東の地下ビル街において、やはり都市型洪水によって地下街が水没し、一人の女性が逃げ遅れて水死するという信じられない事故が起きています。

雨水利用を進めることで、なんとか、こうした都市型洪水を防止できないものでしょうか。

下記の要領で、新宿区西落合の現場調査をすることになりました。

なぜ事故が起きたのか。こうした事故をどうしたら防げるのか、現地を見ながらみんなで考えてゆきたいと思います。

奮ってご参加ください。

記

#### ◆ 日 時

平成12年1月29日（土） 午前10時～12時

（午前10時には出発しますので、それまでにお集りください）

#### ◆ 集合場所

西武新宿線落合駅前・「東京都落合下水処理場せせらぎ公園」

（落合駅下車徒歩3分）

妙正寺川を見学しながら、徒歩で現地へ向かいます。

#### ◆ 調査場所

西落合3丁目付近

#### ◆ 問い合わせ先

事務局長・村瀬 誠（☎03-5608-6209）

# 一雨水利用国際協力一 中國・バングラデシュの雨水利用

## 市民の会による現地調査 報告会のお知らせ

日 時 2月5日（土） 午後2時～

場 所 墨田区役所12階会議室

まずは全員無事に帰国しましたことを報告させていただきます。

10日間で、飛行機に乗ること9回、会議が10回、現地調査が3日間というハードスケジュールで、一步間違えばそこで終わりという旅でしたが、何ごとも起こらず帰ってくることができました。

中国では、耕して天まで届くという段々畑が、見渡す限り、360度の広大な景観に圧倒されました。そこでは一滴の水も逃がさない、無駄にしない徹底した雨水集水、利用が行われています。この事業を支える「121」プロジェクトの実践例を見学することができました。

農村地域での雨水利用の成功例として特筆されるものであると感じました。

ここでは水が非常に少ないので、水を得ることが即、生産の向上につながり、雨水利用の利点がハッキリ見えます。

一方、バングラデシュは水の豊富な国です。ちょうど雨季でしたが、飛行機から見るとどこが陸地かわからない、水びたしの国です。米も年3回収穫できるそうです。

ここでは、水の量ではなく、水の質、すなわちヒ素汚染という問題があります。

実際にヒ素中毒の人々と会い、その深刻さを見たり聞いたりすると、何とかしなければという思いが一層強くなりました。

現在、進められているプロジェクトにも疑問を感じたり、ヒ素もさることながら、衛生問題も決して見過ごすことができないなど、多くの課題を抱える旅でした。

これらの貴重な情報や体験を、できるだけ多くの会員の皆さんに共有していただきたく、報告会を開きますので、ぜひ、ご出席くださるようご案内いたします。

内容は、調査に参加した会員それぞれの、「中国・バングラデシュの雨水利用の報告」と、村瀬誠、山本耕平両氏からとくに「両国との国際協力について」、松本正毅氏と今関久和から「利用可能な資材・技術について」、人見達雄、小沢一昭の両氏が「地下水の水質状況について」の報告などを行ないます。  
(文責・今関 久和)

シリーズ

# 家庭用小型雨水タンクへの 助成制度

## その3 「助成申請には、どんな書類を提出するの？」

◆ 市川 龍 (情報部会所属)

これまで、「あまみず」17号では「助成制度のある地方公共団体」を、18号では「助成金額」についてお知らせしました。今回は、助成金の交付を受けるとき、私たちが揃えなければならない書類について、お話ししたいと思います。

助成制度のある地方公共団体はそれぞれ、申請時に提出してもらう書類を定めています。また、首長あてに提出する「助成金交付申請書」などは、書式が決まっているので、用紙を担当の部署から入手する必要があります。

表-3は、いくつかの地方公共団体について、私たち市民が用意する書類をまとめたものです。「案内図」とは自宅の位置を示すものです。

「配置図」とは、住居のどの位置に雨水タンクを設置するかを示すものです。

「給排水系統図」は、雨水タンクに接続される配管ルートの確認のために必要です。

「タンク詳細図」は、業者が作成するもので、その構造が、行政の基準に適合しているのかどうかを確認するためのものです。

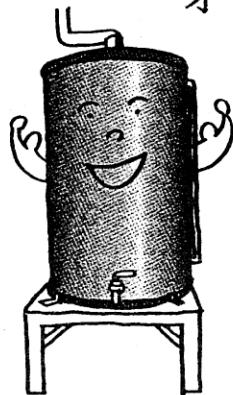
さらに、タンク設置の「証拠写真」と「費用」を明らかにする書類が必要です。

そのほか、「首長が必要と認めた書類」や「承諾書」(倉敷市)、「契約書」(高松市)、「住民票」(鹿児島市)を添付する場合もあります。

一方、浄化槽を転用する雨水タンクについては、さらに「改造工事関連図面」と「浄化槽廃止届」、「排水設備新設計画確認通知書」を揃える必要があります。

表-3 申請手続きで必要な添付書類の例 (小型雨水タンク新設の場合)

地方自治体名	案内図	配置図	給排水系統図 ・ タンク詳細図	タンクの 設置完了 写 真	タンク業者発行			その 他
					見積書	請求書	領収書	
埼玉県 川口市	○	○	○		○			○
東京都 墨田区				○			○	○
		○					○	
神奈川県 鎌倉市	○	○	○		○	○	○	○
愛知県 蒲郡市	○	○					○	○
岡山県 倉敷市	○	○	○	○	○			○
香川県 高松市		○	○	○			○	○
鹿児島県 鹿児島市	○	○		○	○			○



オープンした

## 雨水タンクの展示場

昨年末、徳永暢男さんが、墨田区の仕事場の一部を改装して雨水タンクの展示場を開設された。

これまで、カタログを取り寄せるか、イベント会場の展示場でしか見ることの出来なかった雨水タンク類や付属品が一堂に集められ、いつでも見学が可能になった。近日中にタンク業者のネットワークが生まれ、独自の活動も準備中とのことである。

雨水利用の普及のためには関連グッズが必要で、そのための相談窓口も不可欠である。これまで期待されても実現しなかった、こうした場所の開設に踏み切った徳永さんの決意に心から拍手を送りたい。

21世紀は雨水利用の時代にしようと宣言した、一昨年のフォーラムの主旨を実践に移したさきがけ的存在ではないか。この場から全国津々浦々まで雨水タンクが運ばれ、市民間のネットワークが作られるように私たちも及ばずながら徳永さんに続かなければと思う。（田）

## 展示場住所

墨田区東向島1-8-1

電話 03-3611-0530  
FAX 03-3611-0574(地図をFAXしてください  
るそうです)

## ◆「雨の事典・今年出版」に向けて合宿

いよいよ、タイムリミットの年になりました。昨年末あたりから、「事典」制作チームの中には顔付きが変わってきた人が増えているようです。

合宿は1月22日・23日、渋谷区にある共済組合の宿舎で行われます。各章の目次と原稿もほぼ出そろい、それを元に検討が進められる予定です。今年も暖冬という予報ですが、編集委員の皆さんにとって「暑い」冬が続いています。

◆台湾の雨水利用を  
さらに進めるために

台湾政府の招きにより、村瀬事務局長と佐藤清さんは、今年も2月末から3月8日までの日程で台湾を訪問します。台北、台中、および高雄で、雨水利用の政策と設計技術についての講演や、現場に身を置いて、そこでの雨水利用の技術指導を行う、などの予定になっています。

なかでも台中は昨年の地震による被害が大きかったところ。雨水利用の推進は現実的で緊急の課題でしょう。訪問の成果を期待します。

## ◆「市民の会」のホームページ活躍中

事務局の高原さんによれば、最近、ホームページを見て、入会を希望する人や、資料の送付

を希望する人が増えているそうです。

パソコンの普及は、「燎原の火のごとし」

## ◆辰濃会長、2000年1月1日に…

昨年末あたりから今年は、ミレニアム、ミレニアムと賑やかです。なにしろ、1000年代の変わり目です。新しい、1000年という長い時間を、地球はどのように過ごしてゆくのでしょうか。戦争のない時代を実現できるでしょうか。

この記念すべき2000年1月1日に、会長は70歳の誕生日を迎えられました。おめでとうございます。

## ◆墨田区、環境「ベスト・プラクティス」に選ばれる

4月に開かれるG8環境大臣会合に向けて公募された地球温暖化対策の「ベスト・プラクティス」に、墨田区の雨水利用推進などの事例がみごと入選しました。(ちなみに、「ベスト・プラクティス」とは「優良事例」という意味だそうです)。政府機関や民間を含めた70件の応募があった中で、入選は17件でした。墨田区における雨水利用のさまざまな取り組みが評価され、G8を通じて世界に伝えられるのは、私たちにとってもたいへんうれしく、光栄なことではないでしょうか。





# 電話で さくら

集めた落ち葉の下にたくさんの虫が眠っていたり、放し飼いにしたアヒルが廊下を散歩していたり、——そんな、楽しみながら自然と触れ合うことのできる学校を、先生や生徒と一緒に作っているのが田先生だ。

約6年前、雨水を使うトンボ池から始まって、今では十カ所以上の手作りの観察ポイントができた。「コオロギの小道」「小鳥のレストラン」「どんぐり市場」……それぞれに、なんだかワクワクするような名前が付けられている。

「小学校の低学年のうちに、できるだけ自然と親しむ体験をさせることが大切です。自然の循環を学ぶことで、人間もそこで生かされている生き物だということがわかるはず」と、環境教育の持論の中に、リサイクルの視点も取り入れている。

たとえば、豆腐屋で捨てられるおからを、「うさぎの牧場」のうさぎの餌にして、その

糞を、給食の残り物などと一緒に「たいひ研究所」で堆肥化する。また、雨水利用の際、酸性雨対策のために作ったろ過装置も、いわばリサイクル品だ。大きな潰け物樽を、中が見えるようにアクリル板に張り替え、砂やシユロの葉、割れた植木鉢などを入れてろ過している。

小学校では理科の先生だが、学校ビオトープのテーマで、毎年、土木学会や環境学会でも発表している。そのほか、環境教育のワークショップの実行委員、子どものエコクラブの手伝い、地元のシニア自然大学の講師、川下りのツアーコンダクターなど、大忙しだ。

これからは本当の「ビオトープ」と言えるよう、生き物の餌となるような花を植えたり、周辺の生態系を調べたり、廃棄物の利用をもっと考えたり、地元の方にも参加してもらつたりと、まだまだ課題は尽きない。

(わ)

大阪市立都島小学校  
教諭

田 明男さん  
(でん あきお)

（写真：田中清子）

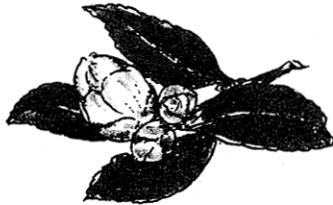
## 事務局だより

田中 清子

おめでとうございます。空っぽになっていた雨水タンクに給水し、風呂桶にたっぷり新しい水を張って、緊張して迎えた2000年。大きな混乱もなくてなによりでした。

◆ 2000年「雨暦」は制作チームの懸命な努力によって、万全の販売態勢を組み、スタートした結果、順調に販売活動を終えることができました。「雨暦」の雨暦たる由縁は、降水確率のデータが載っているところにあると云っても差しつかえないでしょう。旅行やイベントなどの計画を立てる際の参考にしてもらうねらいがありますが、わざわざその目的のために事務局へ買いに来て下さる方があり、感激する一コマもありました。

◆ ところで事務局にはさまざまな電話による問い合わせや相談が寄せられます。テレビやラジオ番組で雨水利用への関心を持たれた一般市民の方から、日常の暮らしに取り入れるにはどうしたらよいか、具体的な方法を知りたいという声が最近目立ちます。トイレに利用する方法、町づくりに活かす方法、公園づくりのプランの参考にしたい等々。その場で即答できるマニュアルなど無いのですから、電話を受けたスタッフは対応に苦慮します。今後、市民の会の活動を、こうした電話に応えられるように変えていきたいし、私自身ももっと経験や実践を積まなければと痛感させられています。



## 編集後記

2000年の最初の会報が20号とは、偶然ですが、何やらめでたいような気がします。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

1月は、22日・23日は「雨の事典」編集スタッフの合宿、29日は都市型洪水の被害があった西落合の現地調査です。さらに2月5日は、中国・バングラデシュの現地調査の報告会と続きます。ぜひ参加してください。

去年1月から5月までの市民の会の「連続講座」はすばらしい内容でした。その中からいくつか、テープ起こしをして、資料集として発行する予定でした。忙しさにまぎれて1年経ってしまいました。ああ！

できるだけ早く取り組みます。

(糸賀 幸子)